

編集 後記

編集顧問 町田 豊平
編集委員 郡 健二郎

小川 秋實 秋元 成太 村井 勝
藤岡 知昭 大家 基嗣

今月号の「手術手技」は女性の尿失禁に対する手術を掲載しています。泌尿器科診療で遭遇する機会は多いが、手術適応を考慮するとなると、少し二の足を踏む先生も多いのではないのでしょうか。必要に迫られているのだが、ちょっととつづきにくい、あるいはとっかかりがないと感じられている先生もいらっしゃるかと存じます。TOT という言葉を耳にするがピンとこない、という先生にぜひご一読いただきたい内容です。

私も TOT という術式名を初めて聞いた時、「随分縁起の悪い名前をつけたものだなあ」という印象を持ちました(理由は本文中に記載されています)。まず、閉鎖孔を通すというイメージが湧きませんでした。私と同じ印象を持っている先生は、最初に武井実根雄先生の「スリング手術:TVT 手術と TOT 手術」を読んでください。詳細な記載と豊富な図が掲載されていて、特に図を一挙に眺めることにより、閉鎖孔を体外から骨盤内からイメージすることができます。穿刺針がスーパーインポーズされている図もあり、すっきりと理解できます。その次に鈴木康之先生の TVT 手術の項を読んでいただくと、今度は TVT の穿刺のイメージが明らかになってくると思います。TVT と TOT を比較した図が役立ちます。図 7 によって、TVT の欠点と呼ばれる合併症の理由が理解できます。武井先生の論文で身についたイメージが、鈴木先生の論文の図 9 と図 10 を見ながら本文を読むことによって、TOT の実践へとつながります。TVT の理解には、逆に、鈴木先生の図を見たあとで、武井先生の論文の 8 つの術中写真

を見ていただけると、すみやかに実践につながっていくと思います。

仕上げは竹山政美先生の論文です。何が TVT と TOT の問題点なのか、それを解決する工夫は何なのかという点について深く踏み込んで書かれています。細かい工夫が随所に記載されているため、手術に慣れ親しんでいる先生にとっても参考になる充実した内容だと思います。器材 1 つ 1 つに語りかけるような先生の姿勢が見て取れます。これら充実したラインナップをご一読いただければ、明日からでも手術を行いたい衝動にかられるのではないのでしょうか。

「ここまできたトランスレーショナルリサーチ」では、膀胱内圧測定のためのテレメーター発振カプセルを取り上げました。著者の松本成史先生はこの内容を昨年の 10 月に開催された排尿機能学会で発表されました。読んでいただくと自明ですが、とてもインパクトが強く、まさに「ここまできたか」という内容です。ユーモアのある松本先生のプレゼンの影響もあり、学会場では質問攻めにあっていたらっしゃいました。今後さらなる改良が施され、何年後にはわれわれの臨床の場にお目見えするのではないかと期待できます。

この原稿を書いている今日のニュースは東京での桜の開花宣言です。春風の心地よい季節となりました。今月号の「臨床泌尿器科」の読後感にも通じるものがあります。

(大家基嗣)

臨床泌尿器科 (第 62 巻 第 6 号) (通巻 740 号)
2008 年 5 月 20 日発行 (毎月 1 回 20 日発行)

定価 2,835 円 (本体 2,700 円+税 5%)
2008 年 年ぎめ予約購読料 (増刊号を含む 13 冊)
41,360 円 (税込・送料サービス)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709
(担当: 登・渡辺・中田)
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp
振替口座 東京 00170-9-96693 番
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.
- ・ 本誌に掲載された著作物の複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ 医学書院ホームページ (インターネット) は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・ 「臨床泌尿器科」のページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinpi/> です。
- ・ JCLIS < 日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。